



海へ下ったアユ仔魚の調査

アユは10月下旬から11月にかけて河川の瀬などに産卵を行い、ふ化した仔魚は流されて海へ下ります。下ったアユ仔魚は海で大きくなり翌年に遡上しますが、海での生態は不明な部分が多く、アユ仔魚の移動や分布を明らかにする必要があります。

そこで、山梨県水産技術センターが開発し、島根県水産技術センターが改良した仔魚を採集するトラップを用いて（写真1）、相模川河口内に位置する須賀港、相模湾に面した平塚新港および茅ヶ崎漁港（図1）で、11月中旬から調査を実施しました（写真2、3）。写真2はトラップを仕掛けている状況で、写真3はトラップに入ったアユ仔魚を回収している状況です。

この調査では、須賀港では海へ下る途中のアユ仔魚、平塚新港や茅ヶ崎漁港では成長したアユ稚魚を採捕することができました。これらからアユ仔稚魚の動向を把握していきたいと考えています。

なお、この調査は県の特別採捕許可を受けて実施していますので、一般の方にはできませんので、ご承知おきください。



写真1



図1 須賀港、平塚新港および茅ヶ崎漁港の位置



写真2



写真3